

社会資本総合整備計画 中間評価書

平成30年08月15日

計画の名称	誰もが安全で安心し、未永く心豊かに暮らせる砂山・今福のまちづくり											
計画の期間	平成27年度 ~ 平成31年度 (5年間)										重点配分対象の該当	
交付対象	和歌山市											
計画の目標	<p>砂山・今福地区は、本市の中心市街地や工業ゾーンに近く、文教ゾーンが地区中央に形成され、利便性が高い住宅地である。しかし、近年は人口の減少や高齢化の進展が進みつつあり、また未利用地や空き地、空き家が増えつつある。</p> <p>さらに、幹線道路は未整備や未拡幅の区間が多く、地区南部の住宅地内では狭小幅員道路が多い状況でもある。</p> <p>このような中、幹線道路の整備推進や主要な区画道路（避難路として機能）・歩車共存道路の整備、防災拠点や公園・広場の確保により、安心安全で利便性が高い居住環境の形成を図ることが重要となっている。</p> <p>また、文教施設を中心とした交流場所や散策路などの整備、地域住民活動との連携による防災・防犯体制づくりや“まちいかし”・“まちそだて”活動により、次世代を育てるとともに魅力ある街なみ環境づくりを図ることが重要となっている。</p> <p>これらのことから、既成市街地の重点的な整備により、『災害に強く、誰もが安全で安心し、未永く心豊かに暮らせる砂山・今福のまち』（住環境の改善）を形成していくことを目指す。</p>											
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）	892	A	892	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C+D)	0 %

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値 (H27当初)	中間目標値 (H29末)	最終目標値 (H31末)
1	居住環境の満足度（満足、やや満足の合計）が22%（H26）から28%（H31）に増加 アンケート調査を計画対象地区(500世帯)に対して実施し、地区の居住環境の向上のために行う道路や公園整備の効果を、居住環境に関する満足度（満足、やや満足、普通、やや不満、不満の5指標の割合）で計測する	22%	25%	28%
2	住民主体のまちづくり活動（道路、公園等の植栽維持管理、緑化活動、空き家空き地の再生活用、避難訓練、避難路検証作業等）の回数が24回（H26）から48回（H31）に増加 NPO法人砂山パンマツリ及び砂山連合自治会、並びにNPO法人愛福会及び今福連合自治会が主催するまちづくり関連活動、企画の開催分を計測する。	24回	36回	48回
3	地区内移動環境の改善状況として、県立和歌山商業高校敷地内東西連絡道路の通過交通が496台/12h（H26）から50台/12h（H31）に減少 市道雄湊高松線から砂山南地区への連絡道路となっている県立高校敷地内道路の通過交通の台数（6:00～18:00の12h、四輪車・動力付き二輪車の二車種）を計測する。	496台/12h	台/12h	50台/12h

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---

A 基幹事業																				
基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名(事業箇所)	事業内容(延長・面積等)	市区町村名/港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費(百万円)	費用便益比	個別施設計画策定状況	
												H27	H28	H29	H30	H31				
一体的に実施することにより期待される効果																				
備考																				
都市再生整備計画事業	A10-001	都市再生	一般	和歌山市	直接	和歌山市	-	-	都市再生整備計画事業(砂山・今福地区)	都市再生整備計画の基幹事業(道路整備、公園整備等)及び提案事業(都市計画道路等整備を活かしたまちづくり手法検討事業等)	和歌山市						892		-	
												小計						892		
											合計						892			

中間評価

中間評価の実施体制、実施時期	
中間評価の実施体制	中間評価の実施時期
和歌山市（都市再生課）、NPO法人砂山バンマツリ、砂山連合自治会、NPO法人愛福会、今福連合自治会	平成30年度
	公表の方法
	和歌山市ホームページ
事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	事業の一部が完了し事業効果が発揮されたこと、また、地域団体による活動が活発化してきていることにより、中間目標値を上回り、一定の事業効果が発現しているものと考えられる。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	
特記事項（今後の方針等）	
事業の一部が完了し事業効果が発揮されたことや、地域団体による活動が活発化してきていることにより、中間目標値を達成することが出来た。計画期間内に事業を完了させ、全ての指標において最終目標値を達成するため、引き続き事業の進捗を図る。	

目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因	
1	居住環境に関する満足度		
	中間 目標値	25%	事業の一部が完了し事業効果が発揮されたことや、事業着手に伴う「期待感」が中間目標値を上回った要因として考えられる。
中間 実績値	27%		
2	まちづくり関連活動、企画の開催回数		
	中間 目標値	36回	地域団体によるまちづくり活動が活発化してきていることが、中間目標値を上回った要因として考えられる。
中間 実績値	42回		
3	県立高校敷地内道路の通過交通の台数		
	中間 目標値	台/12h	
中間 実績値	台/12h		